

TDB 景気動向調査(全国) — 2020年9月調査 —

2020年10月5日
 株式会社帝国データバンク データソリューション企画部
<https://www.tdb.co.jp>
 景気動向オンライン <https://www.tdb-di.com>

国内景気は持ち直しの動きも、業種により差

～ 今後は感染拡大防止と経済活動再開のバランスが一段と重要に ～

(調査対象 2万3,695社、有効回答 1万1,689社、回答率 49.3%、調査開始 2002年5月)

調査結果のポイント

- 2020年9月の景気DIは4カ月連続で前月比プラス(1.9ポイント)の31.6となった。国内景気は、業種によって回復に差がみられたものの、持ち直しの動きが表れた。今後の景気は、良化・悪化要因を抱えながら、横ばい傾向が続くと見込まれる。
- 10業界中9業界、および51業種中45業種で前月からプラスとなった。多くの業種で持ち直しの動きとなったものの、『サービス』や『建設』などでは、業種により回復速度に差がみられた。
- 『南関東』『東海』『中国』など全10地域、43都道府県がプラスとなった。主力産業の持ち直しが地域経済を押し上げた。またテレワークなど働き方の変化により都市周辺における郊外エリアの景況感にプラス要因となった。「大企業」「中小企業」「小規模企業」がいずれも4カ月連続で上向いた。

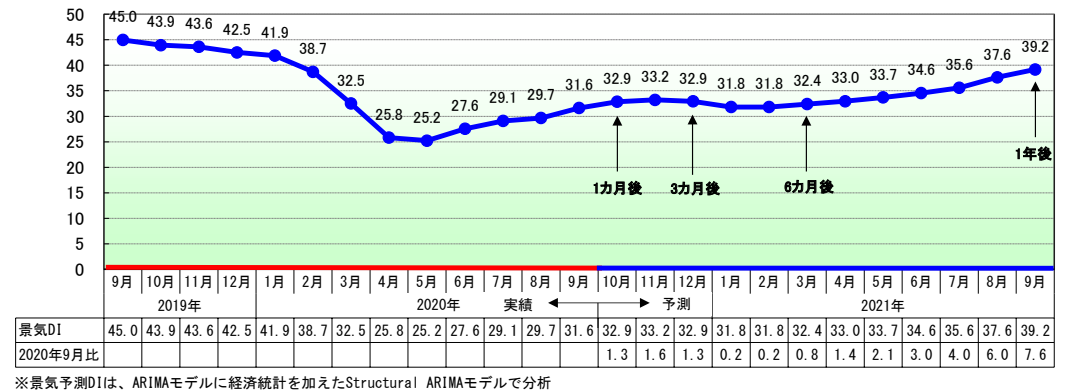
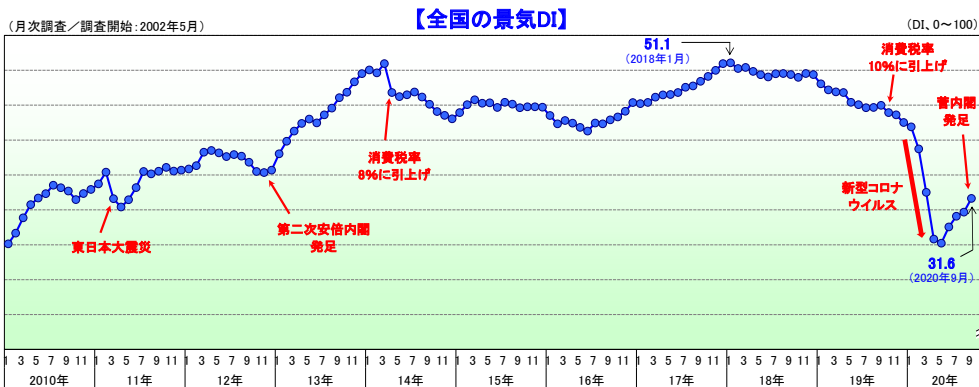
< 2020年9月の動向 : 下げ止まり >

2020年9月の景気DIは4カ月連続で前月比プラス(1.9ポイント)の31.6となった。9月の国内景気は、堅調な公共工事や連休中の外出増、緩やかに上向いた設備投資意欲などがプラス要因となった。自宅内消費の拡大やリモートワークの広がりによる住宅ニーズの高まりなどもみられた。また、5G(第5世代移動通信システム)やインターネット接続にともなう電気通信工事も活発だった。他方、新型コロナウイルスの影響が続くなか、景況感の持ち直しは業種により温度差が表れる傾向もみられた。

国内景気は、業種によって回復に差がみられたものの、持ち直しの動きが表れた。

< 今後の見通し : 横ばい >

今後1年程度の国内景気は、新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動再開のバランスが一段と重要性を増していくとみられる。新しい生活様式に対応した需要創出のほか、外食や旅行、レジャー関連などへの支出の持ち直しが期待される。また挽回生産や自国生産の拡大による設備投資などもプラス要因となる。他方、新型コロナウイルスなどの感染状況次第では、消費者マインドの後退や雇用・所得環境の悪化、政府による活動自粛の再要請などが懸念される。また新政権の政策や海外経済の回復状況も注視する必要がある。今後の景気は、良化・悪化要因を抱えながら、横ばい傾向が続くと見込まれる。



規模別:全規模が4カ月連続でプラス、自宅内消費の広がりで新規需要も

- ・「大企業」「中小企業」「小規模企業」がいずれも4カ月連続でプラスとなった。自宅内消費の広がりで新規需要が高まった。規模間格差は5カ月ぶりに2ポイント台へと縮小した。
- ・「大企業」(33.9) …前月比1.5ポイント増。4カ月連続でプラス。大企業向けの融資姿勢が積極化するなか、設備投資意欲も徐々に持ち直した。特に畜産業などの『農・林・水産』や保険業など『金融』の景況感が大きく上向いた。
- ・「中小企業」(31.1) …同2.0ポイント増。4カ月連続でプラス。在宅需要の広がりで消臭剤や芳香剤などの化学品製造が堅調だったことに加え、家庭園芸に関連する商品の販売伸長がプラス材料となった。
- ・「小規模企業」(32.0) …同2.0ポイント増。4カ月連続でプラス。不動産業において郊外での戸建て住宅の販売が堅調だったほか、テレワークに関連した専門サービスへの需要が表れた。事業が少しずつ再開されるなかで、時間外労働時間DIが徐々に上昇してきた。

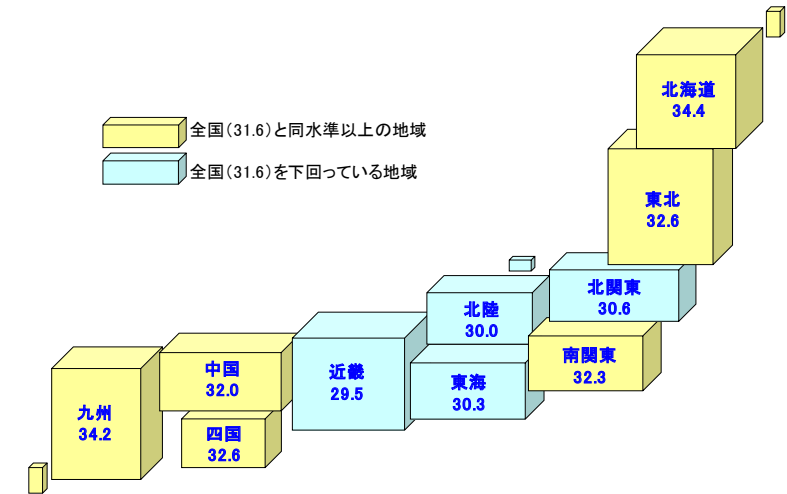
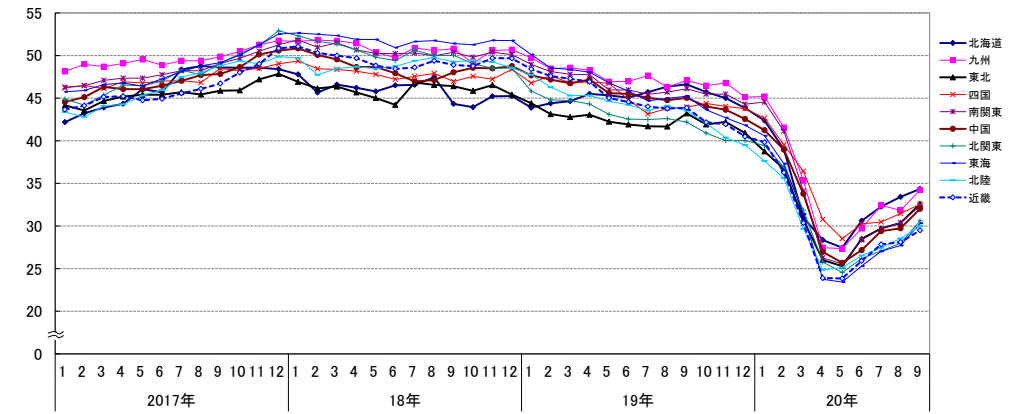
	19年9月	10月	11月	12月	20年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比
大企業	48.0	47.1	47.0	45.7	45.3	42.0	34.8	28.2	28.1	30.1	31.7	32.4	33.9	1.5
中小企業	44.2	43.2	42.8	41.7	41.1	38.0	32.0	25.3	24.6	27.0	28.5	29.1	31.1	2.0
(うち小規模企業)	45.1	43.9	43.5	42.1	41.4	38.8	32.3	25.4	24.6	27.8	29.4	30.0	32.0	2.0
格差(大企業-中小企業)	3.8	3.9	4.2	4.0	4.2	4.0	2.8	2.9	3.5	3.1	3.2	3.3	2.8	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

地域別:2カ月ぶりに全10地域でプラス、主力産業の持ち直しが押し上げ

- ・『南関東』『東海』『中国』など全10地域、43都道府県がプラスとなった。各地域の主力産業の持ち直しが域内経済を押し上げた。またテレワークなど働き方の変化により都市周辺における郊外エリアの景況感にプラス要因となった。
- ・『南関東』(32.3) …前月比1.9ポイント増。4カ月連続のプラスとなり、域内1都3県がそろって持ち直した。テレワークの広がりで郊外住宅の需要が高まるなか、不動産業の景況感は「埼玉」「神奈川」などで新型コロナウイルス感染拡大前に迫る水準まで回復した。
- ・『東海』(30.3) …同2.6ポイント増。4カ月連続でプラス。域内の主要産業である自動車・部品の生産・出荷量の持ち直しが、関連業種へと波及してきたことはプラス要因となった。『東海』の景況感は厳しい水準で推移しているものの、6カ月ぶりに30台へと復帰した。
- ・『中国』(32.0) …同2.3ポイント増。4カ月連続でプラス。3年2カ月ぶりに域内5県の景況感がそろって上向いた。災害復旧工事に加え、自動車関連が上向いたなか、庄原市や東広島市の持ち直しが目立つ。しかし「鳥取」の景況感は全国で最も厳しい状況が続いた。

地域別グラフ(2017年1月からの月別推移)



	19年9月	10月	11月	12月	20年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比
北海道	46.6	45.7	45.0	43.8	42.4	39.0	31.0	28.4	27.5	30.6	32.3	33.4	34.4	1.0
東北	43.2	41.9	42.2	40.9	38.8	36.7	30.7	26.0	25.3	28.5	29.7	30.4	32.6	2.2
北関東	42.2	40.9	40.0	40.0	39.4	36.9	31.8	25.8	24.5	26.2	27.1	28.0	30.6	2.6
南関東	46.1	45.5	45.5	44.3	44.5	41.1	34.1	26.3	25.5	28.4	29.7	30.4	32.3	1.9
北陸	43.5	42.1	40.4	39.5	37.6	35.6	29.7	24.9	25.1	26.5	27.5	28.5	30.0	1.5
東海	45.2	43.6	42.7	41.8	40.6	37.3	31.4	23.7	23.4	25.3	27.0	27.7	30.3	2.6
近畿	43.9	42.2	41.9	40.5	39.8	36.3	30.4	23.9	23.8	25.9	27.8	28.1	29.5	1.4
中国	45.0	44.0	43.6	42.6	41.2	39.0	33.8	27.0	25.7	27.2	29.4	29.7	32.0	2.3
四国	43.9	44.4	44.0	43.8	42.7	39.5	36.4	30.8	28.5	30.3	30.5	31.5	32.6	1.1
九州	47.1	46.5	46.8	45.1	45.2	41.5	35.3	27.5	27.4	29.7	32.5	31.8	34.2	2.4
格差	4.9	5.6	6.8	5.6	7.6	5.9	6.7	7.1	5.1	5.3	5.5	5.7	4.9	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

業界別の景況感企業の声1(農・林・水産～製造)

業界名	現在			先行き	
	7月	8月	9月		
農・林・水産	31.4 ↑	31.0 ↓	30.3 ↓	<ul style="list-style-type: none"> △ 主力の販売単価は維持しているが、それ以外は低下している(畜産サービス) × 公共事業、民間事業ともに落ち込んでいる。民間では、社会インフラに係る企業からの落ち込みが顕著になっている(園芸サービス) × 外食需要の戻りが悪い(養鶏) × 水揚量の低迷と、新型コロナウイルスによる出荷量の減少(漁業協同組合) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルスを受け入れ経済活動が動きつつある(森林組合) × 生産構造がピラミッドになっているため、影響は今後より大きくなっていく(釣・はえ縄漁業) × 東京五輪の準備も終了しており、期待できない(園芸サービス) × 新型コロナウイルスによって外食産業への食料供給が減る(農業協同組合)
金融	31.5 ↓	32.6 ↑	35.3 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ メインの生命保険業界や住宅購入者マーケットに影響が少ない(生命保険媒介) × Go To トラベルキャンペーンにて人の動きが活性化しているが、これまで悪化していた業種であり、全体ではよくなった感じはない(信用協同組合・同連合会) × 新たなビジネスモデルをつくる必要に迫られているが、まだ構築できない(投資業) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在のところ悪化する要因が少ないと考える(生命保険媒介) △ インバウンドの動向が読めない(投資業) × 他業界の影響を時間差で受ける(損害保険代理) × 新型コロナウイルスの収束の目途がたっておらず、感染予防と経済再開の両立は予断を許さない(クレジットカード)
建設	37.5 ↑	38.4 ↑	40.4 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国から光ネットワーク化が推進される(電気通信工事) ○ 東京五輪延期により休工予定が無くなった(とび工事) ○ 大雨による災害が発生したため、大幅な補正予算が付いた(土木工事) ○ 在宅勤務が浸透するなか、戸建住宅を求める人が増えている(木造建築工事) × 外食、小売ともに出店意欲の大幅な減退が生じている(内装工事) × 当初受注見込みであった民間工事や一般住宅のリフォーム工事の中止・見送りや延期が多く、厳しい状況にある。大型の公共工事の発注も少ない(建築工事) × 新型コロナウイルスの影響により、元請会社が在宅勤務になり、予定していた工事が延期及び中止となってしまった(機械器具設置工事) × 新型コロナウイルスの影響で仕事が減少し、競争が激化している(塗装工事) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末に向け、工事数が増えている(一般管工事) ○ 新築物件は減ってきているが、既存設備のリニューアルおよび、新型コロナウイルス対策での空調・換気・フィルターなどの設置ニーズは高まってきている(冷暖房設備工事) △ これから都内各地で大型建設物件の工事ははじまるが、今後それに対応する労働者問題(若年労働者の建設業離れ、現役労働者の高齢化など)が出てくる(電気配線工事) × 6か月後は例年閑散期であり受注が見込めず、積算から受注まで長い期間が必要な案件が多いため2年先までは厳しい状況が続く(鉄骨工事) × 復興や災害復旧も終わり、予算が減少すると考えられる(型枠大工工事)
不動産	32.5 ↑	33.1 ↑	35.6 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 在宅勤務などにより、住宅取得ニーズが徐々に高まってきている(建物売買) ○ 不要不急の転居が減り、高い入居率が維持できた(貸家) △ 一時期に比べると来客いただくお客様が増えている。ただし、各自治体に家賃補助を申請するテナントも散見される(不動産管理) × Go To トラベルや修学旅行などで、観光客が少し増えているようではあるが、大幅な売上改善には結びついていない(貸事務所) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京五輪の開催やインバウンドの復活などがあると見込んでいる(貸事務所) × 法人の働き方の変化により、転勤や通勤のための住まいの確保が減ってくる(不動産管理) × 冬のボーナス減少などによる買い控えが増えると予想(不動産代理・仲介) × 今後の推移が見通せないが、短期間での景気回復は難しいとみている(貸家) × 新型コロナウイルスの影響が徐々に浸透する(建物売買)
製造	24.9 ↑	25.9 ↑	27.8 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマートフォン向けや5G設備需要など、一定の受注が入っており2021年まで継続する見通し(半導体製造装置製造) ○ Eコマースの増加、流通の活況による設備増強、3密回避のために自動化設備を導入する機運が高まっている(動力伝導装置製造) ○ 災害関連の影響もあるためか、年末まで受注を抱えている(製缶板金) × 清酒の販売が回復していない(清酒製造) × 都心部の百貨店などの売上げの回復が遅い(織物製下着製造) × 新型コロナウイルスによるイベントの縮小、中止により印刷物受注が大幅に減少。今後もSNSなどでの発信が増えるため更に減少する(印刷) × 得意先メーカーへの部品納入がメーカー工場の稼働が少ないために出荷が出来ず、売上が減少(工業用プラスチック製品製造) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新政権が目指す規制改革や縦割り行政の解消の進展に期待(事務・運動服等製造) ○ 世界的にデジタル化、DXが進行し、日本も新政権発足により本格的な進展を期待。IT、半導体産業は今後も順調に推移する(光学機械レンズ製造) △ 自働車関連の回復が少しはみえるが、先が見通せない(段ボール箱製造) × 売上げ減少で大手からの値下げ要請がこれからくると予測(潤滑油製造) × 新型コロナウイルスの影響による自動車関連の受注回復の兆しが薄い(金属プレス製品製造) × 輸出、特に東南アジア向けの回復が疑問(自動車部品・付属品製造) × スポーツやイベントがどこまで元に戻るか不明(運動用具製造) × 造船業界の不況は当面続くと考えている(油圧・空圧機器製造)

【判断理由】○=良いと判断した理由 △=どちらでもない理由 ×=悪いと判断した理由

業界別の景況感企業の声2(卸売～サービス)

業界名	現在			先行き
	7月	8月	9月	
卸売	27.0 ↑	27.1 ↑	28.9 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先行きへの不透明感はあるものの、5G、自動運転含むAI、IoT加速の傾向は変わらず、半導体市場の伸びが望める(電気機械器具卸売) ○ ネイルサロンの顧客も以前よりは増加傾向にあると聞いている。このままいけば、業界全体の受注も増加してくるため、景気は良くなる(化粧品卸売) ○ 自動車の生産が増えてきており、素材メーカーである鉄鋼各社の生産量も少しずつ上がっていく(鉄鋼卸売) × 今後、飲食店の閉店・倒産が増えてくる。生き残った店舗への競争があり、価格が厳しくなる(食料・飲料卸売) × 新型コロナウイルスの影響で消費者の購買意欲に欠ける(貴金属製品卸売)
小売	31.0 ↑	30.3 ↓	32.1 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ まだ内食重視の消費環境とみられ、売上、発注数などに落ち込みが感じられない(野菜卸売) ○ テレワーク、ステイホームによる需要の増加がある(家具・建具卸売) △ 売り上げの半分を占める通販関係が9月時点で前年比134%と好調。ただし学校関係は休校からの全体日程の変動から若干の売り上げ減(書籍卸売) × 生産機械設備需要の低迷が続いている(生ゴム・ゴム製品卸売) × 県外・海外の客先がメインの製造業は営業に出られない状態が続いており、生産が落ちている。それにともない我々販売業も受注が止まっている(機械工具卸売) × 引き合い自体が減ってきている(医療用機械器具卸売)
小売	31.0 ↑	30.3 ↓	32.1 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 買い替え需要増加(自動車(新車)小売) ○ 4月～6月の通販業界は売上高は3割ほど上昇したが、7月以降も好調を維持している。特に巣ごもり需要の商材は好調(各種商品通信販売) × 新型コロナウイルスの影響が続いており、ファッション業において消費マインドが上がってきている実感は得られていない(洋品雑貨・小間物小売) × 自動車用燃料の販売低迷と、製造業・観光業などでの稼働低下による潤滑油、燃料使用の減少によって売り上げが減少(ガソリンスタンド) × 新型コロナウイルスの影響で折込広告が前年比で30%減少(新聞小売) × 高齢者の外出自粛の影響が大きい。売り上げが非常に厳しい(貴金属製品小売)
運輸・倉庫	24.2 ↑	25.4 ↑	28.1 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 業界の新しい技術の投入で将来は明るい(情報家電機器小売) ○ 新政権に変わり、東京五輪が行われる事を前提に景気の押し上げに期待(自動車(新車)小売) × ファッション業界では新型コロナウイルスの影響で消費マインドの向上に繋がることは予見しにくい。EC化率の向上が必須である(洋品雑貨・小間物小売) × 秋に行われる予定のイベントが全て中止となり、大きく売上高が減少(燃料小売) × Go To トラベルの本格的稼働がどう作用するか。これをきっかけに出張など移動が本格化して巣ごもり需要が無くなり、需要減となると予想(書籍・雑誌小売) × 需要減が長期化する見通しで、少し上向く程度と見込む(各種食品小売)
運輸・倉庫	24.2 ↑	25.4 ↑	28.1 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自動車関連の生産が上がって、仕事量が増えてきた(一般貨物自動車運送) ○ 近隣倉庫の在庫状況は、あまり空きが無い状況である(普通倉庫) × Go To キャンペーンの恩恵もほとんどなく、バスが稼働しない(一般貸切旅客自動車運送) × 新型コロナウイルスの影響で国際間の人の移動が事実上ストップしているため、ビジネスが成り立たなくなっている(一般旅行) × B to Bの荷動きが非常に減少している(こん包) × 輸出入の貨物取扱いが減ったままで、厳しい業績が続いている(港湾運送) × イカ、サンマ、秋サケ等の不漁の影響が大きい(冷蔵倉庫)
サービス	31.2 ↑	31.8 ↑	33.9 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物量の増大。自動車関係の燃料費が現状より低下する(一般貨物自動車運送) △ Go To トラベルに期待も、感染症の動き次第では悪化する(一般貸切旅客自動車運送) × 生活様式の変化で移動需要も変わり、旅行需要が減退(旅行代理店) × 新型コロナウイルスが終息したとしても、観光業等の需要が回復するには相当の時間がかかると考えられる(冷蔵倉庫) × 外航マーケットの方が立ち直る可能性があるが、内航は2年悪いまま。撤退、廃業が相次ぐ状況(内航船舶貸渡) × 業務渡航のみならず海外への観光旅行も復活の道は険しい(一般旅行)
サービス	31.2 ↑	31.8 ↑	33.9 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルスで巣ごもり需要の増加による(有線テレビジョン放送) ○ レンタカーの予約数が増えている(自動車賃貸) ○ 新型コロナウイルスのためゲーム需要が増加(ソフト受託開発) ○ 2020年7月の九州豪雨にもなう災害関係業務が、官公庁より多数発注されている(土木建築サービス) △ 個人客はGo To トラベルの影響で良いが、団体客の動きが悪い(旅館) × 新型コロナウイルス感染症の影響で鉄鋼、自動車産業を中心にガス需要が落ちている(ガス供給所) × 入場制限・混雑忌避で店舗維持可能な売り上げの確保ができず低迷(一般食堂) × アパレル業界の景気悪化の影響を受けている(労働者派遣)
サービス	31.2 ↑	31.8 ↑	33.9 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内も今期抑えた開発案件をそのままにできないため来期は開発が行われる可能性が高い。また、中国市場の活況を受け来期は良いと期待される(技術提供) ○ 新型コロナウイルスを契機として、今後も他社との差別化を推し進めていく(個人教授所) ○ 新型コロナウイルスによるテレワークで作業人員の見直しが進んでいるが、さらなる開発・運用が動き始めると考えている(ソフト受託開発) × Go To トラベルが1月末で終了する予定であり、例年だと2月は最悪の月。大いに悪化すると想定している(旅館) × 東京五輪が1年遅れ、開催されれば展示会が開催できない(ディスプレイ) × 新型コロナウイルスの影響で患者が戻らない(一般病院)

【判断理由】○=良いと判断した理由 △=どちらでもない理由 ×=悪いと判断した理由

調査先企業の属性

1. 調査対象(2万3,695社、有効回答企業1万1,689社、回答率49.3%)

(1) 地域

北海道	555	東海(岐阜 静岡 愛知 三重)	1,325
東北(青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	799	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,938
北関東(茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	876	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	661
南関東(埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,608	四国(徳島 香川 愛媛 高知)	411
北陸(新潟 富山 石川 福井)	626	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	890
合計			11,689

(2) 業界(10業界51業種)

農・林・水産	66	小売	飲食料点小売業	75
金融	129		繊維・繊維製品・服飾品小売業	31
建設	1,895		医薬品・日用雑貨品小売業	23
不動産	375		家具類小売業	16
製造	飲食料品・飼料製造業	387	家電・情報機器小売業	37
	繊維・繊維製品・服飾品製造業	127	自動車・同部品小売業	88
	建材・家具・窯業・土石製品製造業	244	専門商品小売業	135
	パルプ・紙・紙加工品製造業	110	各種商品小売業	45
	出版・印刷	197	その他の小売業	11
	化学品製造業	462	運輸・倉庫	518
	鉄鋼・非鉄・鉱業	559	飲食店	55
	機械製造業	533	電気通信業	10
	電気機械製造業	351	電気・ガス・水道・熱供給業	20
	輸送用機械・器具製造業	111	リース・賃貸業	131
(3,251)	精密機械・医療機械・器具製造業	75	旅館・ホテル	31
	その他製造業	95	娯楽サービス	64
	飲食料品卸売業	398	放送業	16
	繊維・繊維製品・服飾品卸売業	194	メンテナンス・警備・検査業	203
	建材・家具・窯業・土石製品卸売業	367	広告関連業	107
	紙類・文具・書籍卸売業	100	情報サービス業	501
	化学品卸売業	283	人材派遣・紹介業	70
	再生資源卸売業	37	専門サービス業	302
	鉄鋼・非鉄・鉱業製品卸売業	338	医療・福祉・保健衛生業	127
	機械・器具卸売業	997	教育サービス業	26
(3,080)	その他の卸売業	366	その他サービス業	197
	その他		54	
	合計			11,689

(3) 規模

大企業	2,100	18.0%
中小企業	9,589	82.0%
(うち小規模企業)	(3,424)	(29.3%)
合計	11,689	100.0%
(うち上場企業)	(293)	(2.5%)

2. 調査事項

- ・景況感(現在)および先行きに対する見通し
- ・経営状況(売り上げ、生産・出荷量、仕入れ単価・販売単価、在庫、設備稼働率、従業員数、時間外労働時間、雇用過不足、設備投資意欲)および金融機関の融資姿勢について

3. 調査時期・方法

2020年9月15日～9月30日(インターネット調査)

景気動向指数(景気DI)について

■TDB 景気動向調査の目的および調査項目

全国企業の景気判断を総合した指標。国内景気の実態把握を目的として、2002年5月から調査を開始。景気判断や企業収益、設備投資意欲、雇用環境など企業活動全般に関する項目について全国2万3千社以上を対象に実施している月次統計調査(ビジネス・サーベイ)である。

■調査先企業の選定

全国全業種、全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

■DI 算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index))は、企業による7段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各選択区分の回答数に乗じて算出している。

選択区分	非常に良い	良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	非常に悪い
点数	6	5	4	3	2	1	0
各区分の回答数	N_6	N_5	N_4	N_3	N_2	N_1	N_0

$$\text{景気DI} = \frac{(\text{各区分点数} \times \text{各区分回答数}) \text{の合計}}{\text{有効回答数 } N} \times \frac{1}{6} \times 100 = \frac{\sum_{i=0}^6 i \times N_i}{N} \times \frac{1}{6} \times 100$$

景気DIは、50を境にそれより上であれば「良い」、下であれば「悪い」を意味し、**50が判断の分かれ目**となる(小数点第2位を四捨五入)。また、企業規模の大小に基づくウェイト付けは行っており、**「1社1票」**で算出している。

■企業規模区分

企業の多様性が増すなか、資本金や従業員数だけでは計りきれない実態の把握を目的に中小企業基本法に準拠し、全国売上高ランキングデータを加え下記の通り区分している。

業界	大企業	中小企業(小規模企業を含む)	小規模企業
製造業その他の業界	「資本金3億円を超える」かつ「従業員数300人を超える」	「資本金3億円以下」または「従業員300人以下」	「従業員20人以下」
卸売業	「資本金1億円を超える」かつ「従業員数100人を超える」	「資本金1億円以下」または「従業員100人以下」	「従業員5人以下」
小売業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員50人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員50人以下」	「従業員5人以下」
サービス業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員100人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員100人以下」	「従業員5人以下」

注1: 中小企業基本法で小規模企業を除く中小企業に分類される企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが上位3%の企業を大企業として区分

注2: 中小企業基本法で中小企業に分類されない企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが下位50%の企業を中小企業として区分

注3: 上記の業種別の全国売上高ランキングは、TDB産業分類(1,359業種)によるランキング

■景気予測DI

景気DIの先行きを予測する指標。ARIMAモデルに、経済統計やTDB景気動向調査の「売り上げDI」、「設備投資意欲DI」、「先行き見通しDI」などを加えたstructural ARIMAモデルで分析し、景気予測DIを算出している。

【問い合わせ先】株式会社帝国データバンク データソリューション企画部 産業データ分析課
担当: 窪田、池田、杉原、石井、旭、長崎 Tel: 03-5775-3163 e-mail: keiki@mail.tdb.co.jp

©TEIKOKU DATABANK, LTD. 2020

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。